

膝関節疾患の鍼灸治療

小川 晴 通

一 初めに

1. 膝関節疾患の症状

膝関節疾患を主訴とする症例は、鍼灸の臨床ではその頻度は極めて高く、少なくとも全症例の10%前後に相当するであろうと思います。

本研究の対照とした膝関節の主な症状は

膝関節屈伸運動障害

患部熱感及び発赤

膝関節滲出液による腫脹

歩行痛

正坐困難

等ではありますが(東洋的表現をするならば瘀血性と外傷性が特に多いものや、其の他冷湿、過労性がある)鍼灸治療に来る程度のものを取り上げて分類すると

- ① 膝関節内障の中では、半月障害、側副靭帯及び十字靭帯障害、関節軟骨障害であり
- ② 関節炎症の中では、漿液性関節炎、軽度の化膿性関節炎、淋毒性関節炎、慢性膝関節炎症、結核性膝関節炎、膝関節強直であり
- ③ その他の膝関節症では変形性膝関節症、慢性膝関節リウマチ等に分類されると思います。

鍼灸の保険診療が普及しつつある今日、膝関節疾患においても、保険給付が行なわれる慢性関節リウマチであるか否かの鑑別診断は、より重要となったと思います。

2. 古典の考察

- ① 霊枢経脉扁をひもといてみますと
(イ) 胃経の変動として水腫、膝臏腫痛
(ロ) 膀胱経の変動として、腰、股関節、腓腹筋の痛み

(ハ) 腎経の変動として、脊臀股内の後側痛む臥せんことを好む、足下熱して痛む。

(ニ) 胆経の変動として、胸脇、肋髀膝外より脛の絶骨外踝の前に至る、及び諸節皆痛むとあります。

② 霊枢経筋扁では

(イ) 足の少陽の節病は小指の次指転筋(こぶらがえり)し、腫急なり(膝関節)。

(ロ) 足の太陰の節病は内踝痛み、転筋して痛む、膝の内輔骨痛み、陰股より髀に引て痛む、等とあります。

③ 東医宝鑑には

両膝腫れ、大にして痛み、脾経枯腊して只皮骨を存し、鶴膝の節の如く拘攣跼して屈伸する能はず。

④ 鍼灸重宝記には

男は腎虚、女は血海の虚より発る、或は、風寒暑湿を受けて生ず、走り痛む処定まらざるは風なり、筋拘急して引きさく如くに痛むは寒なり、腫れて重きは湿なり、手足熱して燥渴して便硬きは熱なり、とあります。

次に古典の膝関節に関する治療穴をみると、

⑤ 鍼灸聚英の膝痛の処で

(イ) 腰膝痛は、委中、三里、三陰交の穴

(ロ) 腿膝疼痛で、環跳、陽陵泉、丘墟

(ハ) 脚膝痛は、委中、三里、曲泉、陽陵泉、風市、崑崙、解谿

⑥ 鍼灸要覽では

(イ) 腰膝疼痛は、養老、環跳、陽陵泉、崑崙申脉

(ロ) 膝風腫痛は、天枢、梁丘、膝眼、膝関、足の三里、陽陵泉、陰陵泉、大衝(肝経)とあります。

3. 経験的考察

まだ十分に古典を調べて居りませんが、足の厥

陰肝経と膝関節疾患の直接の関連の文献があまりありません。

私の治験例では膝関節患者50名に対し、

肝経の虚証	34名	68%
腎肝の虚証	9名	18%
脾経の虚証	5名	10%
腎肝胆の虚証	1名	2%
脾虚と肝虚半々の治療	1名	2%

になりまして、肝経の虚証と腎肝の虚証及び腎肝胆の虚証を合わせると全体の88%になります。何故こんなに肝経の証が多いかと考えますと、結局古典の時代の人々と現代人との足の強さが異っている事(運搬、輸送、交通機器の発達による筋肉の退化)と、交明社会の環境より受ける精神的な疲労度の違い、及び食生活の違い等によるのではないかという結論に達します。

二 研究内容

1. 本治験の治療法

表2の証と回数に処にある肝、腎肝、腎肝胆は、皆虚証で実証はありません。以上虚証の経は初診時より該当する経の足の要穴中、兪穴、経穴、合穴と足経絡上反応のある穴に、約15分間の置鍼を症状が軽減するまで行います。これは(患側のみ)軽減後は以上の穴に補法を用います。

次に散鍼として委中、足の三里、陽陵泉、崑崙、膝眼、膝関を用い、其の他に膝関節附近の胃経経絡上に5、6ヶ所軽い瀉法と思われる手技で散鍼を用いますが、この際は患者を伏せさせて、膝関節後側の間に手を入れ、一度強く屈して其の後に湯上り(タオル)を巻いた物をはさみ足先を圧して患者の痛みを感じるままの形で刺鍼を用います。これを運動鍼と名づけています。尚、該当する経の背部兪穴には患側のみ皮内鍼を用います。

又膝関節附近の陽経に新しい血絡の出ている時は之に刺絡をします。

2. 本治験の分析 — 1

表2は、各患者の症状の困難度を様々な角度から分析したものを数値として表わしたものと、治療を施した証と回数及び日数と結果が表わしてあ

ります。

又、表1は表2の上部に記入されている角、歩、液、熱、坐、階、期、併、の説明を表わしたものであります。

そして表2の類型数のらんに示された数字は、各患者の症状の悪化度を示す数値であり、数値が大きい程治療は困難であると考えられます。この表現のしかたを厳密に行うには、

① 各症状の困難度の数値(0, 1, 2, 3)が適当であるかどうかわからない。

例えば、屈曲角度が45度を1, 90度を2, 135度を3, とした考え方が適当であるかどうかである。しかし一応成立すると仮定した。すなわち、角度が45度のものは、135度のものより $\frac{1}{3}$ 軽いという仮定を設けたのである。

② 各症状間の重みづけがわからないが重みが一応同等と仮定した。

例えば、歩行困難の1と正座不能の1が同じ症状の困難度であるということと又、角度測定 of 3と正座不能の3が同じであるということである。

③ 次に各症状間で加法性が成立すると仮定した。すなわち表1の仮定の中で1-2間の困難度の距離と2-3間及び0-1間の距離がすべての症状内、及び症状間で全て等しいという仮定が成り立てば加法性は成立するのである。

そこで初めて単純加算が可能になる。又そこで加算したものを類型数として症状困難度(悪化度)を表わす指標とした。即ち類型数10のものは9のものより症状が悪く、又10のものは5のものより2倍重いということが云えるのである。

3. 本治験の分析 — 2

ここでは表2の中から(この表は多発性関節リウマチ、又は内臓疾患が主訴で分症としての膝関節疾患は本治験例より除外しました。)変った所の内容を個々に取り上げてみます。

1 加○ 敏○

期間は初病3年後に診療 肝経2回、脾経12回になっていますが強い腰痛が併発症となっていたので証が途中で変っています。

3 草○ 文○

膝90°より屈曲出来ないわりに、病状はさ程重病ではなかったが、14回の治療回数が必要であったのは、滲出液、穿刺の為に治療の80%治療時に約40日間海外旅行の為に70日間となったが実質は30日間の治療であった。

4 栗○ 衣○

勤務の都合で週1回の治療と冷房の強い部屋での勤務の為に期間は90日かかった。

5 実○ 美○

4年前に滲出液穿刺2回あり、その後痛みまま放置した為に、症状のわりには長期間かかった。

7 先○ い○

併発病多く7%治療した時に家庭の都合で数ヶ月間治療を中断したので長期間の240日ですが、実際は50日余りでした。

11. 徳○ 美○

症状は軽いが、2回の治療後中断したので期間は長かった。

17 伏○ 淳○

関節は腫張し、全身の高熱を起し、激痛有り。2ヶ月後に来院、患部の炎症は取れていたが、関節運動が完全伸展出来ず松葉杖使用。結核性で血沈5倍程ある重症でも初め、1週間に5回の治療にて杖を用いず歩行可能、膝の伸展も増しその後は急速に良くなった。

18 古○ 福○

40日で完全治癒になっていないが、1週間で膝はほとんど治癒している。坐骨神経痛が強く長時間の歩行とか階段の昇り降りが完全でない為と尚、現在治療中で軽減とした。

22 吉○ 貞○

初め肝経の治療で病状の変化なく軽減をみながったが脾経の証に変わってから急速に良くなった。

23 矢○ き○

脾経の1回の治療で返って悪化したが、肝経の治療にて日増しに良くなった。この場合は証決定の誤りである。

24 吉○ 秀○

3年前から関節炎で滲出液も10回穿刺している。来院時も膝は約倍に腫張し熱を伴い、関節を左右より圧迫して振動させると波動的に滲出液が

手に感じたが其の後は液の穿刺をせずに治療した。初め90%まで屈曲痛であったが現在治療中である。浮腫は取れ液もなくなり瞬間的には正座出来るまでに良くなった。

25 吉○ 明○

6年前から関節炎で肘関節、足関節共に悪く治療期間中に、倒れたり、又は、冷房ルーム冷え込み、再度悪化したが、それも回復し背部に瘍が出来て膝は80%の治療中のまま、中断中ですが其の後悪化はしていない。

26 渡○ 菊○

穿刺6回の慢性症で45年7月から1ヶ月間治療、80%の治療、その後中断して、最近又治療中ですが完全治癒に至っていない。

30 安○ た○

2ヶ月前から膝関節痛で正座と歩行は痛く、同一姿勢がつらく、夜間膝の深部の痛みが強弱波の様にきたが患部に熱がなく1回の治療で全治した。

33 榎○ ヒ○

症状は余り重くないが左右の関節が犯され期間がかかった。初診時2ヶ月前から右膝が悪く、2週間前から左膝が痛くなって来院、左側は10日余りで治癒し右側が永かった。初めは左右、中期より右肝経のみの治療となった。

36 滝○ 三○

サッカー中、膝関節前外側より強度の打撲をうけ、膝関節屈伸運動不能、関節の炎症は少なかったが、膝の伸展はほとんど出来ず、特に完全に伸びなくなっていた。現在治療中であるが、関節炎よりも膝関節周囲の筋を痛めている事が主訴である。

37 村○ ナ○

出産直後の関節炎で2回穿刺、洋式生活の為に関節の曲りが悪かったが、完全に治癒して帰国が出来た。

38 平○ 都○

埼玉の田舎の為に、来院回数が少ないので患側膝眼穴に施灸(15壮)を併用した。

43 角○ 深○

症状は重症ではないが10年前からの膝関節炎で他の併発症が多く長期間かかった。

44 武○ 先○

表 2 < 膝關節疾患 50 例 >

氏名	性別	年齢	角	歩	液	熱	坐	階	期	併	類型数	証と回数	日数	治癒率
40 加 敏	♀	65	1	2	5-(3)	1	2	2	2	3	14	肝-2 脾-12	70	癒
41 西 由	♀	18	1	2	2	1	1	2	2	-	11	肝-6	30	"
42 西 心	♀	70	1	1	-	-	1	1	2	1	7	肝-5	20	"
43 高 芳	♂	73	1	1	-	-	1	1	2	-	6	肝-2	10	"
44 角 深	♀	60	1	2	-	1	2	2	3	3	14	腎肝-8	40	"
45 武 先	♀	63	2	2	3-(3)	2	2	2	3	3	19	腎肝-6	40	不明
46 ド 伊	♂	14	1	1	-	-	2	2	2	-	8	脾-2	10	癒
47 川 豊	♂	69	1	2	-	-	2	1	2	3	11	肝-8	50	"
48 永 治	♂	17	1	2	-	-	1	1	1	2	8	腎肝-4	20	"
49 藤 き	♀	51	1	2	-	-	1	1	3	3	11	腎肝-6	40	"
50 小 桐	♀	37	1	2	-	-	1	1	1	1	7	肝-4	20	"
51 小 政	♀	40	1	2	-	1	2	3	3	3	15	肝-7	40	"
合計		2.566										391	1,950	
平均		51.3才										7.85回	39日	88%

類型数 (合計数) 証と回数 (治療回数) 日数 (治療期間)

永年の膝関節炎で穿刺しており、初め10日間に3回の治療で軽減し一時中断、その後、3回治療でほとんど治癒していたが現在完全治癒か不明である。

46 川○ 豊○

関節痛は余り重症ではないが高令と歯科医の為に1日立っている事と、週1回の為に治療が長びいた。

以上であります。

三 検討及び結論

表2を整理してみますと、本治験例は

- 女子37名 男子13名
- 平均年齢51.3才
- 平均治療回数7.85回(約8回)
- 平均治療日数 40日
- 治癒率 88%

以上の様になりました。

本研究の目的は、冒頭に述べた様に仮説=膝関節疾患は肝経の病である=を実証する事でありました。そこでこの仮説の上にて治療を施した結果が正しかったかどうかを、判定する為に、症状の悪化度を示す類型数と治療回数との関連を調べてみる必要があり、これをグラフにプロットしてみました。実際理想状態であれば何らかの曲線になるはずであるが(類型数の算出には前に挙げた仮定が完全に正しいとは云えない。及び各患者には個人差・年齢差による違いがあり、それらは治

療回数に何らかの影響をあたえるだろうから)この場合は幅をもったものとなっている。この上でこのグラフを見ていただければ私が期待した様な結果となっていることが、お解りになると思う。例えば、類型数14の平均治療回数9で見るとそれより症状の軽い場合、そのほとんどが治療回数は少なくなっている。又それより重い症状の場合は治療回数が多く表にあらわれている。

実際にこの類型数と治療回数との間の相関係数を算出してみたところ、0.624でありました。この数値は、類型数と治療回数との完全なる相関を意味する数値ではありませんが、前に述べた様に因子設定が完全に行なわれる事が不可能である事や、治験例の中に海外旅行等の止むを得ない事情のために治療間隔が長期に渡ってあいてしまったもの等が数例あり、その各々がより多くの治療を施している事情等を考えて見ますと充分な数値と思われる。

治療回数と類型数との相関があるという事は、症状の悪さの度合に比例して治療回数もかかるという極く単純な事実を述べているに過ぎませんが、これは適切な治療をした場合のみに言える事で、そうでなければバラバラになるか幾ら治療しても直らないという結果を招きます。

結局、相関があるという事は治療が適切であったという事であり、その治療は肝経の証が88%であった事より、仮説「膝関節疾患は肝経の病である。」は完全に実証されないまでもかなり近いものであるという事が言えます。

表1 <膝関節の困難度>

角 関節角度測定	1	∠45°可	2	∠90°可	3	∠135°可
歩 歩行困難	1	100m=平常	2	歩行痛	3	歩行介助の必要
液 滲出液	1	少量	2	多量	3	液抜きと回数
熱 患部の熱	1	一部位に軽度	2	一部位に強く	3	全体に
坐 正座不能	1	時により	2	苦痛	3	不能
階 階段昇降疼痛	1	昇り降りの一方	2	昇降共に苦痛	3	昇降困難
期 発病期間	1	1ヶ月以内	2	1年以内	3	1年以上
併 合併症	1	1つ	2	2つ	3	3つ以上

